

## エコロジカルな回心 —すべてのいのちを守るため—

鹿児島修道院

「地球の叫びと貧しい人々の叫びは、これ以上待つことはできません。」

このフランシスコ教皇の切実なお言葉に心を動かされ、わたしたち鹿児島修道院の共同体は、今回与えられたテーマについて真剣に振り返りの時をもちました。エコロジカルな回心は、エコロジカルな霊性に基づかなければならないと、フランシスコ教皇は『ラウダート・シ』で教えてくださっていますが、このことについて、わたしたちにも学びの機会をいただき、再確認できましたことを心から感謝いたします。

「世界は、愛にあふれた神の贈り物である。だから、大地は共通の相続財産なのだ（すべての人の善益のためにある）。

- それなのに人間は大地の支配権を濫用し、他の被造物への抑圧的な支配を正当化してしまった。
- その結果、現代世界は生物学的危機に加えて、人間の倫理的、文化的、霊的危機の状況にある。貧しい人々と地球のもろさはつながっていて、貧困問題と環境問題とは同根である。
- 現代に生きるわたしたちは『エコロジカルな回心』の必要を謙虚に認め、『エコロジカルな教育』を推進し、『エコロジカルな霊性』を深めていかなければならない。」（大塚喜直司教『2018年 司教年頭書簡』参照）

鹿児島修道院では、「エコロジカルな回心」についての個々人の思いを出し合いました。

例えば、

- 毎日の生活で、節約・清貧に努めている（節水・節電など）。今ある物を大切に丁寧に使っている。ただし、これらが優先されわたしたちが共に生活する家、共同体、姉妹方の心を大切にすることがないがしろにされないように、注意して実践していきたいと思う。
- ペーパーレス化に努め、古紙の再利用に心がけ、リサイクル資源の確保にも協力している。
- 毎日の食事を感謝していただき、食前・食後の祈りを、神と人々への感謝のうちに心を込めて祈っている。
- 環境保全のために、自分たちの住居・事業所をきれいに整え、清潔にすることも大事なこだと思う。
- 便利な生活、快適な生活を追求するあり方を考え直さなければならない。何がほんとうに必要なのか、大切なことは何なのかを地球規模で考えていかなければならない時にきている。まずは、一人ひとりが自覚して行動することではないかと思う。
- 新聞やテレビなどを通して、弱い立場にある兄弟姉妹に関心を持ち、彼らのために祈ることはできる。
- 地球温暖化や森林破壊、エネルギー問題、生物多様性の危機などについて、また SDGs について、貧困や格差の社会問題について、共同体としても学び実践していくことが必要ではないか。
- 事業所として教育の場が与えられているので、エコロジカルな教育にも力を入れる。



わたしたち鹿児島修道院の共同体に与えられたテーマ「エコロジカルな回心」への回答として、次の3つをあげたいと思います。

①個人としても共同体としても、微力で小さな存在だが、それでも、小さいなりに日々の生活の中で実践できることを、これからも謙虚に果たし続けたい。

②現代社会の動向と環境問題について、すべてのいのちを守ることにつながる学びを深めていきたい。できれば、共同体として皆で学ぶ場が設定できればと思う。また、学んだことを学生、生徒、接する方々に伝えていきたい。

③神が望まれるエコロジカルな霊性を生きるために、教会の呼びかけにいつも注意を傾け、教会及び善意の方々と連帯し、行動をともにしたい。この3つです。今回の学びを糧に、フランシスコ教皇が『ラウダート・シ』で教えてくださった、「神、他者、自然、自己とのかかわりの回心」を常に意識するように努め、「総合的なエコロジーに適応した新しいライフスタイル」を模索しながら歩みます。そして、置かれた場で、社会の福音化のために神の国のパン種となれるよう、心から願い努めていきたいと思います。

フランシスコ教皇、全世界の教会と心を合わせて祈ります。「神よ、すべてのいのちを守るために、あなたの愛の道具として遣わしてください。すべての被造物とともに、あなたを賛美することができますように！」